

納涼随想

毎週月曜から金曜の夕方、私の緊張の時間が始まります。二〇〇七年の四月からAKTスーパーニュースのキャスターを担当しています。

キャスターといっても、ただ原稿を読めばいいというわけではありません。私の一日の流れは、県内各地に取材に出かけて、帰社。夕方のニュースまでに原稿を仕上げます。取材が長引いてしまったとき、思うように筆が進まない時は、ニュースぎりぎりまで原稿を書いていることもあります。

「着替えなきゃ、メイクもしなきゃ……髪はボサボサだしこんなんじゃ画面に出られない！」と焦るばかり。最近はいいぶ原稿を書くスピードも上がりませんが、あのスリルは今でも忘れません。

始まりですが、以前「間に合わない！」とスタジオに駆け込んだことがあります。それが大失敗。廊下を走ったため、息が上がって原稿がまともに読めないのです。「落ち着け」と心の中で叫び深呼吸をして、何とか本番を迎えました。「どんなに急いでいても本番前は走らな

い目を持っていきます。恥ずかしながら私は「武田さん……これなんて読むんですか？」と漢字の読み方を聞くこともあります。親切に教えてくれますがそのたびにもっと勉強しなければと反省しています。そんな私も今年でキャスター三年目。今では多くの方が「いつも見てるよ」と声をかけてくれるようになりました。その言葉は私の何よりの活力です。スーパーニュースを楽

AKT秋田テレビニュースキャスター

つらい時こそ笑顔で秋田のため何かしたい

後藤 美菜子 (平成13年卒)



「い！」教訓です。AKTスーパーニュースの武田哲哉キャスターは、秋田高校

の人のためにがんばろう！心からそう思えるのです。大学を卒業し秋田に戻ってくる

の先輩です。武田さんは自ら典型的なA型と言うほどきちんとしています。机の上はいつも整理整頓されているし、B型の私とは対照的です。そんな武田さんはまさに「言葉のプロ！」言葉の使い方、アクセント、表現力などに厳し

ことに迷いはありませんでした。秋田が好き、秋田の人のために何かをしたい……そんな思いが強かったからです。ニュースは毎日明るい話題ばかりではありません。事故や火事、事件も発生します。それでも、少しでも秋田が元気になるような話題を提供したいと日々取材を続けています。モットーは「つらい時こそ笑顔でいよう」。きょうも笑顔で生放送に臨みます！

寄稿

「同窓会だより」で、新会長に豊口氏（昭三十四卒）が承認されたとの報を読んで、改めて豊口山のことを思い出され一言書くことにしました。

私（豊口 昭二十八卒）が高校を卒業して上京した頃の東京の街角には公衆電話があちこちにあり、その電話の脇には厚さが五〜七cmもある電話帳が置かれていました。その電話帳には豊田は多かったが、

豊口会長名に思う豊口山（信州）

豊口 邦彦（昭和28年卒）

したと言われているそうです。この名前の出所は何人も分かるまい！。同じ名前の人一人の男の名が毛馬内を発祥とし、その子供や子孫が日本全国に散っていったのだそうです。

……この話の内容の真実性は確認していません。しかし、この話は面白いので子供や孫達にも伝えていこうと思っています。

私は現在、信州は諏訪湖に近い富士見町に住んでいますが、本籍は今もつて毛馬内です。富士見町は八ヶ

夏休みなどで秋田に帰省した時、教員をしていた父が面白い話をしてくれたので、その時の思い出話を書くことにしましょう。

日本全国の豊口という人のルーツをたどると大部分の人が鹿角郡毛馬内町（現在・鹿角市十和田毛馬内）に行き着くと言われています。その昔平民に名字帯刀が許された頃、毛馬内に一人の男がいて心に残る故郷信州にある思い出の山に因んで名字を「豊口」に

岳の南麓と南アルプスの北麓との狭間の町です。

私は今も趣味で近くの山歩きを楽しんでいます。豊口山へも行きました。豊口山（二二二一m）は信州南部の大鹿村にあって、百名山の一つ塩見岳（三〇四七m）への登山道の脇にあります。登って行く道は車がやると通れる程の道幅で、且つ山の斜面に添った道が続き、遠く山ひだの美しさを眺めながら高度を上げて行きます。